

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： 松田 亮三
研究テーマ	人間科学研究所・CEHSOC プロジェクト

I. 国際連携先の概要	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 衣笠総合研究機構人間科学研究所 (プロジェクト名) CEHSOC プロジェクト
共同研究機関	(名称) University of Essex (代表者) Professor Paul Hunt
II. 研究計画の概要	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
<p>「到達可能な最高水準の健康の享受」は、戦後国際社会の重要理念であり、開発における健康の戦略的重要性やグローバル化の下での人々の移動の増加の中で、改めて国際規範としての健康権のあり方が問われている。</p> <p>本研究では、この分野で国際的な指導者である Paul Hunt 氏(エセックス大学法学部教授、国際連合・到達可能な最高水準の身体的及び精神的健康を享受する権利に関する特別報告者)と共同し、国際規範としての健康権のあり方、各国の義務、裁判規範性と実施措置、他の基本的人権との整合性を検討することを追求する。</p> <p>そのため、棟居ポストドクトラル・フェローをエセックス大学に派遣し、今後の共同研究及び若手研究者の派遣とスーパーバイズについて Hunt 氏と協議し、来年度以降の具体的な共同研究プロジェクトの展開について合意に達することを目指す。</p>	
III. 研究成果の概要	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>2007年11月9日及び2008年3月20日の計2回、英国・エセックス大学において、Paul Hunt 氏と面会し、今後の共同研究及び若手研究者の派遣とスーパーバイズについて協議した。</p> <p>共同研究の一部として、国際シンポジウム「健康権の再検討：近年の国際的議論から日本の課題を探る(仮)」の開催(於・立命館大学)を企画し、本シンポジウムにおける Hunt 氏の講演について承諾を得た。残念ながら、双方のスケジュールが合わず、本年度中の開催は見送られたが、2008年度の開催に向けて継続して Hunt 氏と日程を調整しているところである。本シンポジウムの開催を契機に、海外及び国内の関連分野の研究者及び実務家の交流を図り、国際的及び国内の健康権研究のネットワークを構築することを計画している。</p> <p>また、若手研究者の派遣及びスーパーバイズについても、Hunt 氏と合意に達した。具体的には、来年度以降の棟居ポストドクトラル・フェロー(PD)の受け入れに向けた協力、同PDが行う「日本における健康権保障に関するモニタリング調査」へのスーパーバイズ及び Hunt 氏へのインタビュー調査への協力について承諾を得た。</p> <p>以上のように、本年度の活動によって基本的な協力関係が構築されたと考えられるので、今後シンポジウムの開催等、具体的な共同研究を展開していきたい。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。